



社団法人日本建築学会 会長

和田 章

社団法人鉄骨建設業協会が創立30周年を迎えられたことに対しまして、心よりお慶び申し上げます。

大学や工業高校の建築学科では、鉄骨構造の設計法とその構造について必ず教わっており、部材に生じる応力についてもしっかりと勉強するが、応力と対になるひずみや、その積分値として求まる撓み、振動、揺れについては、計算法を習うだけで、これらの本当の意味を理解するまでには至っていないと思う。

建築物を設計し実際につくるうえで重要なことは、鉄骨造でも鉄筋コンクリート造でも、その作り方、施工法を知って、これを実行することである。他にも建築物の耐久性のことなど、知らなければならないことは多々あるが、これらの重要な内容ほど、教育の場ではあとのほうで教えられ、十分な時間をかけているとはいえない状況である。実務経験のない先生方には教科書以上のことは教えられないという問題もある。

このように振り返ると、「ものに触り、ものを作る」一番大事なところは、教育から最も遠いところにあり、結果として若い設計者、若い現場監督などは、実際の仕事の中で、見よう見まねでこれらの技術を習得していることになる。

鉄骨構造の場合の実務の先生は、社団法人鉄骨建設業協会の会員会社のベテランの中におられる。安全でしっかりした鉄骨構造を作るためには、「1にディテール、2に撓み、3に応力」という先輩の言葉が思い出される。鉄骨建築にとって重要なことは、応力ではなく、むしろ常時利用で生じる撓み、地震や風を受けて生じる横揺れの方である。さらに最も重要なことは、部材や接合部のディテールを「作り易く」、「力の流れがスムーズな」ように、設計することであり、これらを間違いなく作ることである。

長年、鉄骨建築の設計、工場製作、現場施工の場面で重要な多くの技術を開発、蓄積してこられ、日本の建築全体のためにご苦勞なさってきたことに感謝すると共に、今後の社団法人鉄骨建設業協会の皆様のさらなるご活躍を期待しております。